

『2016年ドーピング防止に関する注意』

公益社団法人 日本パワーリフティング協会
スポーツ医科学委員会 委員長 蜂須 貢

1. サプリメントに注意

海外製サプリメントには禁止薬物が混入されている場合があります。日本のメーカーのサプリメントを使うことをお勧めします。

2. 医師処方薬にも注意（以下のものは使わないこと、あるいは別の薬剤を処方してもらうこと）

疾患治療薬<例示>	作用又は成分	備 考
抗ぜんそく薬	β2-作動薬、エフェドリン類	吸入薬は OK
血糖低下薬	インスリン	その他糖尿病薬 OK
心筋代謝調節薬	トリメタジジン	心筋酸素、乳酸等摂取率上昇させるため 使用不可
利尿薬	排尿が体内のドーピング物質を低下させる	ARBとの合剤に注意(プレミネント、ミコンビ、コディオ、エカードなどは使用不可)
ステロイド性抗炎症薬	糖質コルチコイド	吸入薬、皮膚外用軟膏、点眼薬 OK
乳がん治療薬	アロマトーゼ阻害薬、 エストロゲン受容体調節薬	経口避妊薬や黄体ホルモンなどはOK
骨粗鬆症治療薬		
排卵誘発剤		
毛生え薬	—	プロペシア、リアップ OK
ナルコレプシー治療薬	モダフィニル(モディオダール)	興奮薬なので競技会時には使用不可 (一週間以上前に使用中止)
ADHD治療薬	メチルフェニデート(リタリン、コンサータ)	
漢方薬		成分が特定できないため使わないこと

3. 薬局で購入できる薬剤にも注意

疾患治療薬<例示>	薬剤又は成分	備 考
総合感冒薬、抗ぜんそく薬	エフェドリン、麻黄	タイレノール(解熱鎮痛薬)のみ OK
胃腸薬	ストリキニーネ、ホミカエキス	左記の成分が入っていない場合は OK
滋養強壮薬		ステロイドや興奮薬が入っていることがある
毛生え薬	ペレウス、ミクロゲンパスタ	ステロイドが入っている(リアップは OK)
漢方薬		成分が特定できないため使わないこと

4. 薬を使用する場合

薬を使用する場合は、「薬剤師のためのドーピング防止ガイドブック 2015年版

http://www.nichiyaku.or.jp/action/wp-content/uploads/2015/07/guidebook_web2015_1.pdf」

を参照して下さい。記載されていない薬剤は使用しないこと。

医師より処方を受ける際は、自分がスポーツ選手であり、ドーピング違反物質を使えないことを告げて下さい。後で心配になった場合は、まず「薬剤師のためのドーピング防止ガイドブック 2015年版」を参照し、更に心配な場合は、**J P Aスポーツ医科学委員会委員長蜂須 貢** (mhachisu@pharm.showa-u.ac.jp) まで連絡して下さい。医師処方薬剤、市販薬に関することに対応します。

尚、「薬剤師のためのドーピング防止ガイドブック」は毎年国体前までに国体開催県の県薬剤師会より更新されます。冊子を購入せずとも内容はインターネットにて検索できます。

※2015年より、白同化薬、ペプチドホルモン(エリスロポエチン、成長ホルモンなど)、利尿薬及び隠ぺい薬、禁止方法を取った場合は、**資格停止が4年**に延長されました。

※過去の事例では、競技力向上を目的として使用した薬剤、サプリメントに、禁止薬物が混入されていることを知らなかった場合でも、処分期間の短縮はありませんでしたので、くれぐれもご注意ください。

以上